

コンパクトシーラーの耐久性について

圧着機の寿命はメインモータの寿命とほぼ同等と言えます。

メインモータには通常AC（交流）モータか、DC（直流）モータが使用されます。

弊社のシーラー機は【小型・軽量・静寂】を目標に開発され、開発当初からDCモータを採用しています。

DCモータの特長を記載することで、機器の耐久性が、ご理解いただけると思います。

DCモータの特長（ACモータに比べ）

- ① **小型**
中空軸型DCモータでメインロータ（メイン圧着ローラ）を直接起動させ、極めて体積が小さい。
- ② **軽量**
DCモータの採用が、軽量化のポイントとなります、ロボットや精密制御系で採用されます。
- ③ **高トルク**
DCモータの最大の特長ともされる、駆動トルク（力）が大きい。
- ④ **静音**
静音設計ではなく、DCモータの特長そのものでもあります。（60デシベル以下を実現しています）
- ⑤ **低発熱**
モータの連続運転で発熱する度合いですが、これもDCモータの重要な特長で、連続運転でほとんど発熱しません。
- ⑥ **長寿命**
モータの寿命は、ほぼ発熱量で決まると言われています。熱でモータの回転系のダメージが強まるのです。DCモータ寿命はACモータの2倍以上が保証されています。
- ⑦ **DCモータの最大の欠点は高価であることです。（ACモータの約3倍）**
一般的に事務機器（プリンタ等）ではDCモータは採用されません。
したがってACモータ仕様のプリンタ等は運転開始時の温度と連続使用の数時間後には、極端に熱がこもり、圧着ハガキの成果物にかなりの影響が出てきます。（プリント用紙に与えるストレスに大きな差がでる）

以上がDCモータの特徴ですが、結局DCモータの特徴が、そのまま耐久性の証明になると思われれます。

過去の1000社以上の実績で、メインモータの故障は皆無です。

弊社のCS80モデルは見た目『きゃしゃ』ですが、シーラー機自体が軽量なため外部カバーもプラスチック系のカバーが採用され、さらに機械全体の軽量化に貢献しています。

結論として、『きゃしゃ』にみえますが、耐久性は競合他社のACモータ採用機に比べはるかに耐久性が高いのです。連続運転する場合は、DCモータが断然有利です。

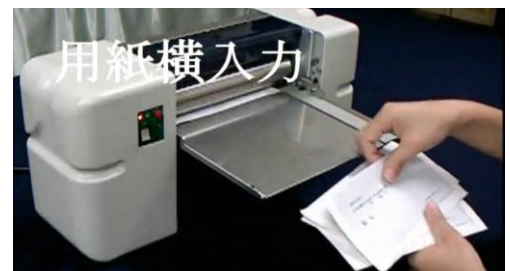
圧着用紙との整合性について

- ① 先程の⑦でも記述した様にプリント出力後の用紙に対するストレス（カール、しわ等）が重要です。
- ② 圧着ハガキ用紙の品質、材質、形状等も重要になります。
圧着ハガキであれば何でも良いというわけではありません。
- ③ 用紙の賞味期限の管理の問題。（用紙の賞味期限は6か月）
ユーザが購入してから6か月ではなく、メーカー（大王製紙等）の出荷から6か月で、流通在庫期間の加算が必要です。
- ④ その他、郵便で規定する仕様になっていることも重要です。
自治体は豊富な実績をお持ちで、問題ないと思われれますが、各部署で独自設計された場合等に問題が発生する事があります。

【CS80 Model】



【CS30 Model】



動画【<https://www.tcsnet.co.jp>】

【HPのTop Page】→【コンパクトシーラーボタン（page左下）→シーラービデオボタン】→【CS80モデル or CS30モデル】